

# 解答別紙

2006年度

## 「政治学」

(月曜6限開講 担当：宮下大志)

### 学年末試験 問題用紙

2007/1/29 (月) 6限実施

## 披見：否

### 注意事項

1. この試験では、問題用紙と解答用紙が別になっている。
2. 時間になるまで問題用紙の次ページ以降の内容は見ないこと。
3. 試験開始以前に、解答用紙に必要事項（受験者の所属や氏名等）を記入しておいてもかまわない。ただし、学生証の提示、受験カードの記入等、試験監督の指示を優先すること。言うまでもなく、必要事項以外の書き込みは不正行為となるのでしないこと。
4. この問題用紙は、表紙も含めて、片面印刷で5ページである。試験開始時間になったら、乱丁・落丁がないかを確認した上、解答を始めること。
5. 問題用紙は回収しないので、各自持ち帰ること。
6. 全く解答不能の場合でも、答案用紙は必ず提出すること。
7. 答案用紙の表の面に書ききれない場合には、裏面に書いてもかまわない。ただしその際には、解答用紙に指示されている方向から書きはじめること。
7. 不正行為があった場合、あなたの将来に大きな影響を及ぼすことになるので、不正行為は絶対にしないこと。
8. 文字は読みやすい字を書くよう、心掛けること。
9. 問題に答えず、ただノートの内容を再現しただけの答案には単位が与えられないので、ちゃんと問題に答える形で答案を書くこと。
10. 優秀な答案を作成した者には、後日氏名を発表して表彰するが、氏名の公表を望まないものは、解答用紙冒頭に、その旨明記すること。

## 問題本文

2017年、日本ではこれまでの民主主義の常識を覆すような提案が行われていた。「日頃から政治に関心を持っている人と、選挙の時に何も考えずに無責任に一票を投じてくる人と、同じ一票というのは不公平だから、政治への知識や、過去の選挙への参加実績などを考慮して、二票あるいは三票を持つ人と一票しか持てない人と格差をつけて、真面目に政治のことを考えている人の声が政治により反映されるようにしよう」というものである。

さて、なぜこんなことになったのだろうか？

あなたが大学に入学した頃には、自由眠衆党（現実の日本政治に対する政治的中立を保つため、政党名・政治家名は仮名にしておきました。もしかしたら、実名以上に政治的中立を侵しているかもしれませんが・・・いや、違います！これはそもそも架空の世界の設定でした！）の古泉首相が「痛みを伴った改革」とか言って、それまでの日本の政治のあり方を一変させようとしていた。そしてたしか、「政治学」の試験を受ける頃には、首相も不安倍さんに代わったが、「古泉路線を継承する」と言っていたのだった。

しかしその結果、日本には「格差社会」とよばれる状況が出現し、人々は「勝ち組・負け組」、「上流・下流」というかたちで、はっきりと区別されるようになってしまったのだ。

自由眠衆党は、以来10年、所得の高い人への所得税減税などを通して、この「格差社会」を結果的に維持する政策を継続してきた。「がんばった人を優遇することが、社会の活力につながる」というのである。

そして自由眠衆党は、それら上層の人々の支持を中心に、その後政権を維持し続けてきたのであった。もちろん、所得の高い層は人口的には限られているので、それ以外の層にもその時々甘い言葉も投げかけた。また、幹部が「この候補に投票を！」と言えばほぼ100%党員が従う、宗教団体を母体とした政党の今迷党と連立を組んでいることにも助けられていた。

このように長期政権を担ってきた自由眠衆党ではあったが、選挙での不安要因も自覚していた。もともと、上層の人を政策の中心としているため、選挙の基盤が弱くなってきていたのである。以前は公共事業を地方にばらまいて、地方の票をあてにしていたのだが、古泉さんのときに、公共事業のばらまきの代表格である蛙井静香や綿貫臣輔に刺客を送り、その後の政策でも「地方も自分のことは自分でなんとかしなさい」と突き放してしまったこともあり、都市部の票が頼りである。もちろん、それに備えて、以前には放置

しておいて批判された「選挙区毎の一票の格差」はかなり解消しておいた。

しかしそれでも、やはり不安なのである。まず、連立相手の今迷党ももともとは弱者重視の党であるため、もともとの立党精神と、「支持母体の維持のために政権に参加し続けていたい」との考えの間で、最近「ぶれ」が目立ってきた。

また、最大野党の人主党は、基本的には寄り合い所帯のためいざという時には意見がまとまらずこれまでは政権獲得に至らなかったが、大沢三郎や缶直人の引退後は、相変わらず党内バラバラながら、大衆受けのする党首やタレント候補を擁立し、何度かは政権党の過半数を脅かす結果も得ていた。

そこで、自由眠衆党は冒頭の提案をしたのだ。もちろん、党利党略は内側に隠して、建前で人々に訴える。

それは・・・。「日頃は政治に関心もないくせに、そして普段は投票もしないくせに、マスコミがスター扱いする候補がいる時だけ何も考えずに投票する人たち・・・こんな人たちによって、日頃から政治について真面目に考えている人たちの声がかき消されてしまってよいのだろうか」と言う主張。なぜ、「真面目な一票」と、「いい加減な一票」が、同じに扱われなくてはいけないのか？自由眠衆党は「真面目な」人たちに訴えかける。

「おかしいでしょう！普段から、ちゃんと政治に関心を持ち、いろいろ考えた人の一票と、な～んにも考えていなくて、『有名だから』とか、あるいはポスターの顔で『この人がかっこいいor美人だ』というだけで投票する人の一票が同じに扱われるなんて！」

ある面ではもっともだ。

そして、自由眠衆党は言う。「その人に一票しかもたせないか、それとも二票あるいは三票をもたせるかについては、過去の投票実績と、『政治についての知識を問う試験』を行って決める。二票・三票を認めてほしい人にはこの試験を受けてもらい、その成績と過去の投票実績とで、その人に二票・三票をもたせるかどうかを決める。もちろん、『自分は一票だけでいい』という人は、試験を受けなくともかまわない。いうまでもないことだが、与党に有利になるように自分達の支持者には基準を甘くするとかいったような恣意的な運用は絶対にしない。きちんとした客観的基準でこの制度を運用する」

しかしもちろん、これには「ウラ」がある。

先程述べたようにいまは「格差社会」なのだ。そして「格差社会」の裏側には「学歴格差」がつきまとっている。つまり、基本的には「ちゃんと考えて投票する人」というのは高等教育をちゃんと受けた人で、「上層」に属し、

自由眠衆党の政策に恩恵を受けており、彼らに「ちゃんと投票しているし、政治に関心も持っているから」という理由で二票・三票をもたせれば、きっと自分たちを支持してくれて、選挙で大量得票を期待できるのである。まあもちろん、「インテリ」の中には、妙に与党に批判的な人もいて、そして批判をすることで自分の存在意義を見いだすような「ひねくれた」輩もいないわけではないが、そういった連中はたいした割合ではないだろう。それよりは、無知で虐げられた大衆に、選挙の決定権を渡さない方がいい。大衆の中にも、自分の立場を意識せず、建前には反応する連中もいるから、おそらくこの提案は通るだろう・・・そう、自由眠衆党は考えている。

さて、この提案に対して、あなたはどのような立場をとるか、答案用紙に自由に展開しなさい。どの立場をとるかは自由であり、あくまで各人一票の原則にこだわってもよいし、彼等の提案（思惑はともかく）に乗って論じてもよい。

なお、じつはあなたは考えるところがあって、今後、政界への進出を検討している。その「考えるところ」の方向性は自由であるが、その「方向性」（政策）を明示した上で、上の提案に対してどのような立場で臨み、そしてそれがあなたの実現したい「方向性」にとってどのような意味で有効かについてもきちんと説明すること。

ただし、「憲法の『法もとの平等』に反するから、彼等の提案はダメ」というだけの主張は、答案としては不合格となる。彼等は、「真面目な人もいい加減な人も一緒というのは悪平等である」という主張を展開しており、「改革のさまたげとなるのなら憲法改正も辞さない」という立場である。

答案を書く際には、以下に挙げた12の語のうち少なくとも7つ以上をそのまま使って、解答すること。そして、それらの語をそれぞれ最初に使った箇所では、その語を  で囲むこと。

語群

(省略)

なお、「就職が決まっているので単位がほしい」など、個人的な事情を述べて単位を懇願する記載のある答案は0点とする。時間に余裕のある場合は、講義・試験についての感想を末尾に書いてほしい（ただし、採点対象にはならないので、時間のない中、無理に書いてくれなくてもいい。後に会った時にでも聞かせてくれれば、あるいはK-Smapyのフォーラムにでも投稿してくれれば、その方がいいだろう）。